

都市再生整備計画 事後評価シート  
都農中央地区

平成26年3月

宮崎県都農町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	宮崎県		市町村名	都農町	地区名	都農中央地区			面積	284ha			
交付期間	平成23年度～25年度		事後評価実施時期	平成25年度		交付対象事業費	443	国費率	0.395				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	地域生活基盤施設(にぎわい拠点緑地広場)、高次都市施設(物産センター、下浜交流センター)									
	当初計画から削除した事業		提案事業	地域創造支援事業(歩道橋整備事業、中部土地区画整理事業)									
			事業名		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	基幹事業	高次都市施設(物産センター、下浜交流センター)		物産センターは、営利施設であるため補助対象から削除。下浜交流センターは、海岸沿いの防災上の観点から削除。			影響なし						
	提案事業	地域創造支援事業(歩道橋整備事業)		歩道橋は、観光資源をつなぐ公共施設に該当することから、基幹事業に移行する。			影響なし						
新たに追加した事業		基幹事業	道路(歩道橋整備事業)、高次都市施設(観光交流会館)		観光交流会館は、地域住民や観光客の交流の場、及び観光資源の情報発信としての場を確保。			影響なし					
		提案事業	-										
交付期間の変更		当初	平成23年度～25年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-					
		変更	-										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	にぎわい拠点の入込客数	人/年	-	-	72,000	平成25年度	-	641,160	○	あり なし	● 道の駅、にぎわい拠点緑地広場と物産館整備事業により目標値を上回る数値が得られた。	平成26年8月頃
	指標2	観光客数	人/年	441,480	平成21年度	485,000	平成25年度	-	284,596	×	あり なし	● 口蹄疫病発生の影響を受け大きく目標値を下回った。	平成26年4月頃
	指標3	建物件数	件/年	3	平成21年度	4	平成25年度	-	4.3	○	あり なし	● 定住化促進事業と併せた道路整備事業により目標を達成した。	平成26年4月頃
	指標4										あり なし		
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	にぎわい拠点施設に対する満足度	点	-	-		-	0.7			観光資源の活用の拡大が期待されることを利用者が実感していることを確認できた	平成26年6月頃	
	その他の数値指標2	地域イベント参加者数	点	32,984	平成21年度		-	40,848			イベントを通じた観光資源の活用により、一年を通して地区内外の交流が行われていることが確認できた。	平成26年4月頃	
その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況													
5) 実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた		-						
	住民参加プロセス	なし			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		-						
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		-					
				都市再生整備計画に記載し、実施できた		-							
持続的なまちづくり体制の構築					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		-						
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		-						
					都市再生整備計画に記載し、実施できた		●		町内関係団体と連携を図り、地域住民を含めた地域活性化に努める。				

## 様式2-2 地区の概要

### 都農中央地区(宮崎県都農町) 都市再生整備計画の成果概要

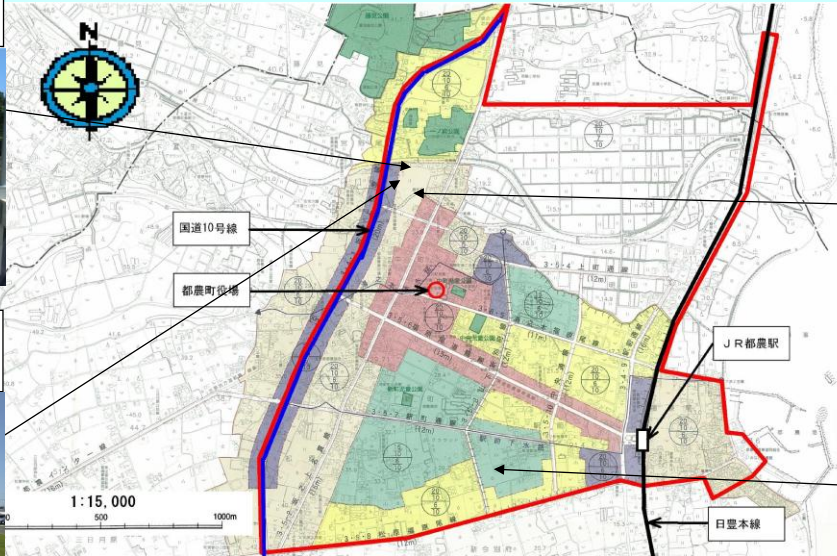
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
本町における「地域資源」や「観光施設」と連携した中心市街地を再構築し、まちに賑わいを醸し出し活力のあるまちづくり ・地域資源と連携した公共施設の整備により、交流人口の増加を図り、周遊型・滞在型観光づくりを図る。 ・地域資源、観光資源と連携した情報発信を行う拠点づくりによる中心市街地の活性化を図る。 ・疲弊した地域経済を活性化させるために、農商工連携を強化し本町産業における所得向上を図る。	にぎわい拠点の入込客数	単位:人/年	— H21	72,000 H25	641,160 H25
	観光客数	単位:人/年	441,480 H21	485,000 H25	284,596 H25
	建物件数	単位:件/年	3.4 H21	4 H25	4.3 H25
	にぎわい拠点施設に対する満足度	単位:点	0 H21		0.7 H25
	地域イベント参加者数	単位:人/年	32,984 H21		40,848 H25

- 関連事業  
 (口蹄疫復興ファンド事業)  
 ・物産館整備事業  
 (簡易パーキング事業)  
 ・道の駅事業  
 (都農神社夏大祭・冬大祭)  
 (都農尾鈴マラソン大会)  
 (メガソーラー事業)

■基幹事業  
 (道路事業)



■基幹事業  
 (地域生活基盤施設)  
 にぎわい拠点緑地広場



■基幹事業  
 (高次都市施設)  
 観光交流会館



■提案事業  
 (地域創造支援事業)



まちの課題の変化

- ・道の駅が新たな賑わい拠点になったことにより従来からの観光資源である観光農園等の影がうすく感じられる。
- ・地域イベント参加者数は、近年増加傾向にあり観光施設との融合により更なる発展の可能性が感じられる。

今後のまちづくりの方策  
 (改善策を含む)

- ・町内外に対し地元の暮らしぶりや伝統、活力ある町の姿を広くPRする。
- ・観光客のみならず地元住民がくつろげる憩いの場を提供する。
- ・確認し易い、分かり易い道路標識の整備推進。
- ・町の商店などの活性化の推進。